



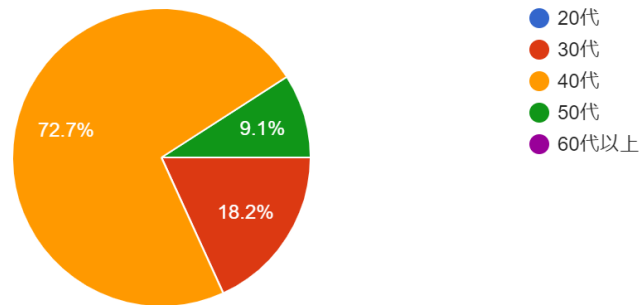
「ソーシャルワーク研究」オンデマンド アンケート

本研修を視聴頂きありがとうございます。視聴後、アンケートにご協力をお願い致します。

1. 年齢

11件の回答

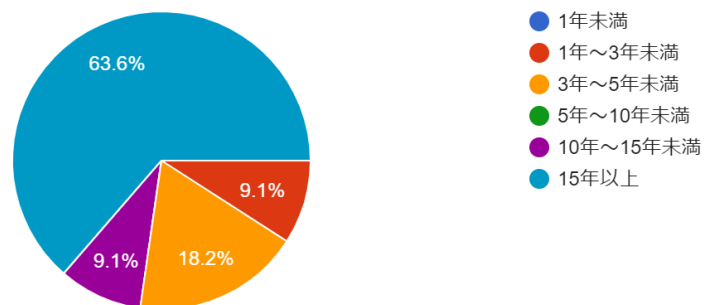
 コピー



2. 医療ソーシャルワーカーとしての経験年数

11件の回答

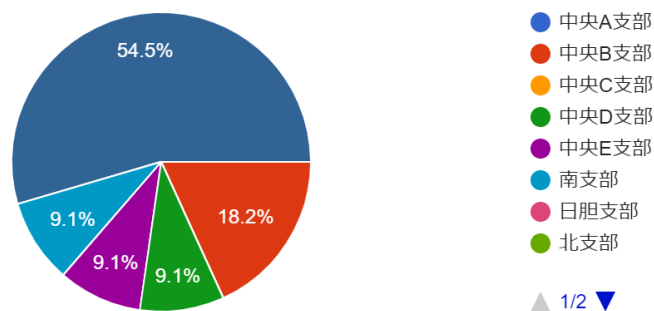
 コピー



3. 会員種別



11件の回答

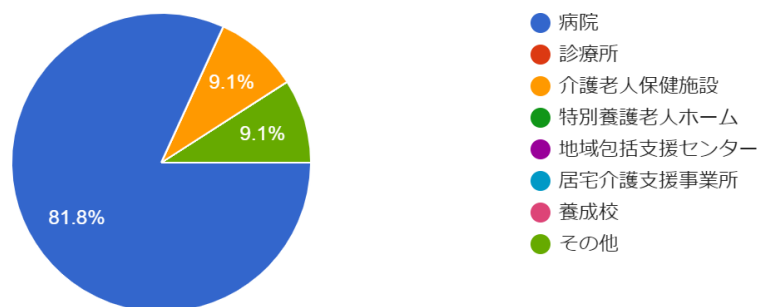


▲ 1/2 ▼

4. 所属機関



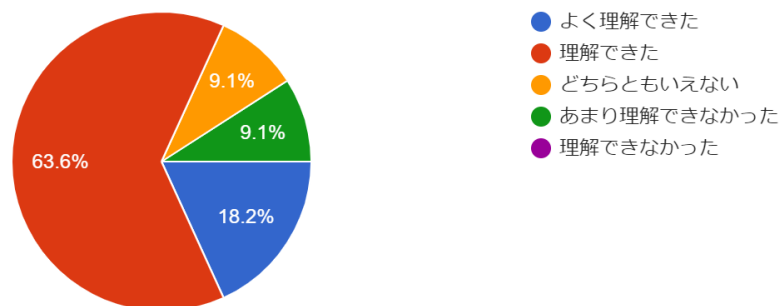
11件の回答



5. (1) 講義の理解度について、次のうちあてはまるものにひとつチェックをつけてください。



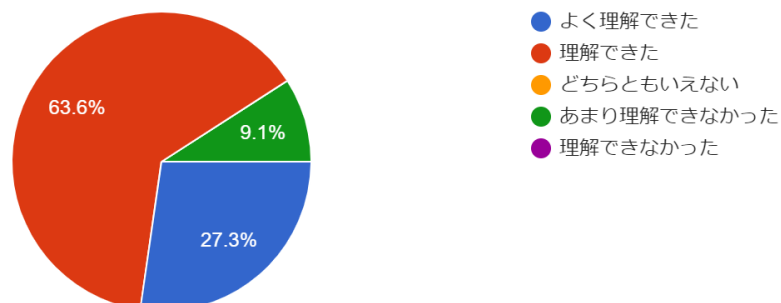
11件の回答



(2) 実践報告①の理解度について、次のうちあてはまるものにひとつチェックをつけてください。



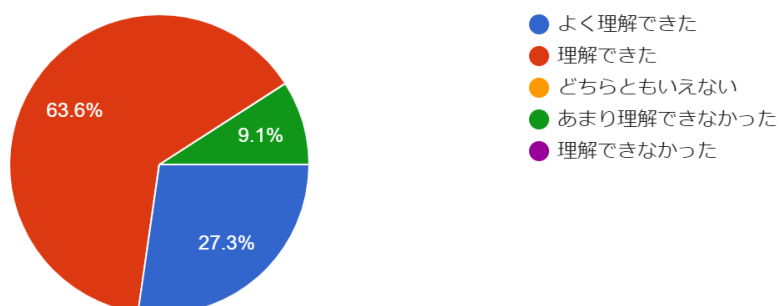
11件の回答



(3) 実践報告②の理解度について、次のうちあてはまるものにひとつチェックをつけてください。



11件の回答



(4) 上記でそのように答えた理由についても、ご記入ください。

9件の回答

研究というものがどういうもので、何をしていたらいいかは理解ができた

不動さんの講義は大変平易にご説明いただいていると理解しながらもまだ難しく何度も資料を読み直さないとよく理解できたとはいえないと思いました。

「研究方法」は自分の勉強不足のため十分理解できなかった。他にお伝えされていることはよくわかりました。

貴重なお話をありがとうございました。北海道協会のキャリアラダーについての研修を受け、今回研究について初めて研修を受けました。実際、キャリアラダーで研究分野が苦手となったので、今回の研修はとても有意義でした。研究を身近に感じる事ができたとともに、困難さも知ることができました。私は研究をまだ始めてもいないので1から学ばないといけないのですが、先行研究を調べるというのはどういうものなのか、どういった手順で行うのかを知りたいと思いました。研究者なら当然のことかと思いますが、研究に触れたことがないので何から調べればよいのか、調べる方法なども分かりません。分析方法などはとても難しく、数学の授業を聞いているようでしたが、講師の先生方が少しでも分かりやすく伝えようとしてくださっていることは強く感じました。とにかく実践の中から研究の種を見つけていこうと思います。私は出身大学も遠く、現在勤務している地域の大学とのつながりもないため、どうやったら研究にとりかかれるのか途方にくれていますが、北海道協会の研究サポート事業が全国に広がっていくと良いなと思いました。

概ね理解ができましたが、内容が難しく十分理解するには反復した学習が必要と感じました。

量的研究と質的研究の違いやどのように研究に取り組んでいけば良いのかについては、研究未経験者でも分かるように講義して頂けたので理解できましたが、データの統計的処理については不勉強な自分にとっては理解するのが難しかったです。

なぜ疑問を持ち、どのように調査して、どのような結果が得られて、どのような還元を得られたのかを伺えたため。

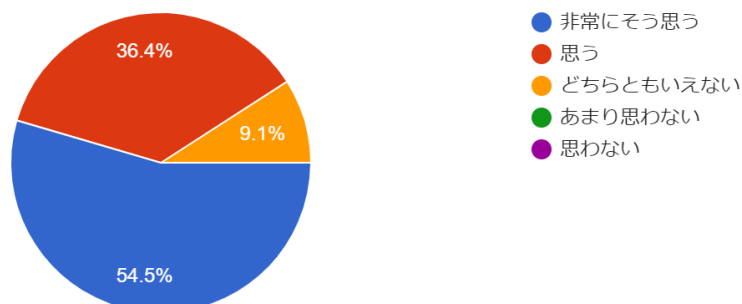
高泉氏の「ボクノート」を引き合いにした研究の話は、不動氏の難しい研究の話から小出氏の不動氏の流れをかみ砕くような説明の流れをさらに細かくかみ砕いていただいた内容となり、それまで難しい言葉が続いていて「やはり研究は難しいもの」と聞いていた講義がガラッと変化し、耳に入りやすくなったタイミングだと思いました。

講義の分析について自身の知識がないことが理由で十分理解することは難しかった為参考に挙げっていただいた書籍などで再度自分でも勉強する必要があると感じた。実践報告では研究の取り組みを具体的にイメージすることができた。

6. (1) 本研修を受講し新たな気づきや振り返りとなる点はありましたか。



11件の回答



(2) その理由もご記入ください。

7件の回答

臨床実践と研究が横並びで考えないとマクロ実践には結びつかないと認識できた。

なぜ研究をするのかということを考え直す機会になった

日頃から支援には根拠が必要と理解をしているつもりで後輩や実習生に伝えてきましたが、では根拠とは何かと考えると、なんとなく根拠が薄いような気がしていました。理数系の専門職が圧倒的多数の医療機関の中で、自分たちの専門性をどう証明するのかに困っていたことに気が付きました。根拠が単なる経験値や勘ではないことはわかっていましたが、自分の支援の根拠を医療職に通じるように言語化できないもどかしさを抱えていたことにも気が付きました。また、これまで何気なく聞いていた全国大会の分科会での発表が、どれだけの苦勞と努力があったのかと発表者の方々に申し訳ない気持ちでいっぱいです。研修の最後の座談会は、とても印象的なことばかりで、録画して繰り返し確認したいことばかりでした。自分たちの実践をきちんと形にしてたくさん集めることができれば、すばらしいなと思いました。在学時や初任者の時にこういった研修に出会えていたらよかったです。

実践家が研究を行う意義や必要性を再確認するとともに、研究に取り組みまでには勇気や覚悟が必要な為、職能団体のサポート体制を上手く活用すると良いことが分かりました。

自分が行いたい研究の参考となったため

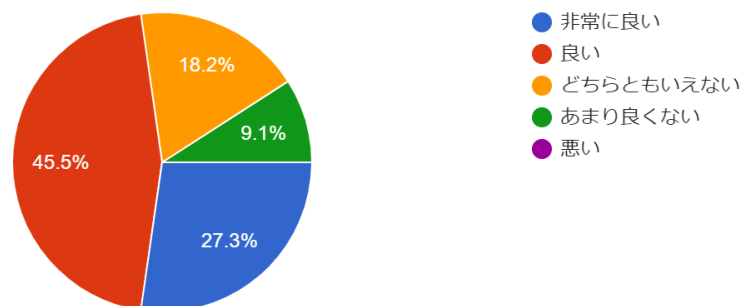
不動氏の言葉にあった、研究無き実践が実に身にならないものであることを講義の中で度々拝聴させていただくことで、今までの自分がただ何となく実践まがいのものを行っていたことを気づかされたことが一番大きい事です。また小出氏が研究がソーシャルアクションとして地域に貢献するためのものであるという言葉、高泉氏のソーシャルワーカーの地位向上の為に必要なものとの言葉に感銘を受けました。

講師の方々の具体的な話とデータ収集・分析の方法を結び付けてきくことができとても勉強になりました。

7. オンデマンドの聴きやすさ・見やすさはいかがでしたでしょうか。



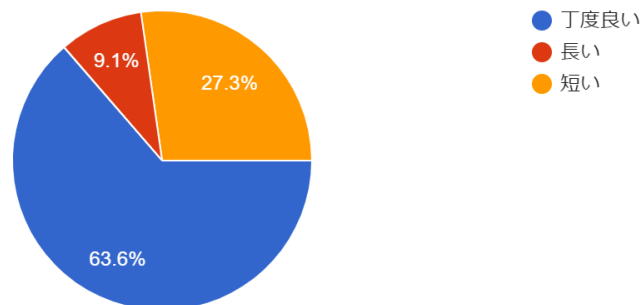
11件の回答



8. オンデマンド配信視聴期間について、当てはまるものを選択してください。



11件の回答



9. 今回の研修運営、今後の研修等についてご意見ご感想がありましたらご記入ください。

4件の回答

ソーシャルワーク研究未経験者でも学べる貴重な研修を企画して頂きありがとうございます。次年度も是非、研究についての研修（分析方法を中心に）を開催して頂ければと思います。

研究に関する講師として話をされる方は大学院卒の方が多く印象があり、研究に対する基本をきちんと学んでいる方の講義であるため研究への向き合い方や躰いたポイントも伺えることが非常にありがたかったです。MSWとして研究を初歩から始める場合は事例研究から行う方が多いように思えるため、大学院で基礎を学んでいなくても量的研究を十分に行っているのだろうかという不安と恐怖心を感じています。特に職場や周囲に指導してくれる方がいない場合は進め方自体がわからないという方も多いので、そうした経験を積んだ方の話も伺ってみたいと思いました。

具体的に、誰（どこ）に相談し、どのように進めていったのか、そこから得られた体験を聞いてみたいと思いました。

講義のみに終わらず、座談会形式で三者三様の気持ちの入った言葉が聞けたのはとても貴重な時間となりました。凄く構成が良かったように思います。

座談会でも不動先生から話がでていましたが、是非事例研究法について深める研修があれば参加させていただきたいと思います。